

網走市のごみ処理方式の破綻に対する網走市議会文教民生委員会独自の反省と検証
＜第1次とりまとめ＞

配布：令和4年6月20日

第1回確認：令和4年7月20日

第2回確認：令和4年8月29日

・最終処分場が当初計画より早く埋まっている原因

○生ごみ堆肥化の停滞

→生ごみの分別協力率9割（他地域比しても良好な分別状況）

→堆肥化停滞の原因は「異物混入」ではなく、技術導入時の性能評価の問題に起因している。

○紙おむつの処理手法の未確立

→将来的な処理手法の確立を見通して分別したが、効果的な処理は導入されないままにある。

→トン数以上に紙おむつは水分を含み容積が増す為、最終処分場に重量以上の負荷をかけている。

○埋立ごみへの資源物混入

→分別協力率6割強は深刻な異物混入状況とは言い難く、平均的かつ現実的な分別協力率から試算した最終処分場の設計、計画、運用でなかったことが問題の本質。

当初計画と現実の乖離の要因及び検証を要する視座

○実現可能性に乏しい現実離れした処理計画を策定した。

○市民に協力していただきやすい分別ルールでなかった。具体的な分析の視点としては、排出者側目線の欠落、誤解を招きやすい袋の設定、当初説明のみを前提にした処理し切れない分別体系、行動変容につながり難い違反ゴミのステーション放置など。

○計画策定時においてコンサルタント業者や処理業者の説明・提案に対し、現実に応じた検討や異なる視点からの助言を求めることなく、当初説明に疑念を抱かず受容した。

○紙おむつの分別は収集後の行き場がないままの見切り発車であり、結果的に輸送焼却という追加支出（令和3年度で年間約3,500万円）が発生した。

○必要な規模感や設備に即した予算確保が為されなかった。結果として運用開始直後から施設の広

さや各種機材の規模、装備に不足が露呈し、結果的に後追いの支出が何度も行われてきた。

○最終処分場の運用開始後、計画と実態の乖離がすぐ明確になったにも関わらず効果的な改善修正を図らなかった。

○網走市として「あるべきごみ処理の手法」を日常的に検討していなかった。

○最終処分場の危機的状況を適時適切に市民に周知してこなかった。

○まちづくり懇談会や市民向け説明会で出された意見や改善策を反映してこなかった。

○議会として理事者の説明を「信ずるに足るもの」として許容した。

上記の各項目に沿って当該事象の経過、背景、原因について更なる調査を要する。